



## 2 主な施策の取組状況

### 重点戦略2 強みを伸ばす



# (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

## ①-1 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

### ○ 次世代型生産基盤整備技術の農業者向けPR動画を公開

- スマート農業に対応した基盤整備技術の導入を推進するため、各種技術の効果や導入に際しての留意点、実際に技術を導入した農業者のインタビューなどをまとめたPR動画を作成しました。
- これまで、5つの技術について、農政部YouTubeチャンネルにて動画を公開し、農業農村整備事業を計画している地域や経営拡大を検討している農業者に広く視聴していただいています。
- 今後も新たな動画を作成するとともに研修会等を開催し、農業者の理解促進を図っていきます。



作成したPR動画

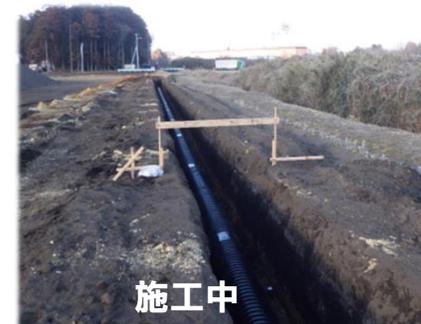
(農地整備課)

### ○ 次世代型生産基盤技術を導入(河内地域)

- 宇都宮市海道地区では、将来にわたって農家が活躍できる生産性の高い基盤づくりを目指し、水管理システムや排水路の暗渠化等の次世代型の基盤整備に取り組んでいます。
- 実際に次世代型生産基盤技術を導入した営農により、明らかとなった課題や留意点等を整理し、地域として何が必要かを考え、現場の抱える課題解決に向けた取組を進めていきます。



水管理システム



排水路の暗渠化

(河内農業振興事務所)

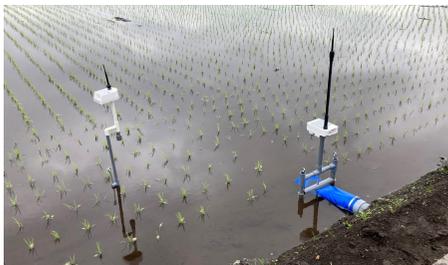
## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ①-2 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

#### ○ 水管理システムの導入等による水稲生産の省力化(芳賀地域)

- 担い手への農地集積や規模拡大による労働力不足が問題となっているため、水稲栽培の省力化を図る手段として、水位センサーと自動給水栓を用いた水管理システムの導入を進めています。
- 本システムは、ほ場に行くことなく、スマートフォンでの遠隔操作による水管理が可能となり、水回り時間の短縮が図られることから22箇所を設置されました。
- 芳賀町北部第2地区では、芳賀町土地改良区との連携のもと、希望者への操作説明会を実施しており、今後もほ場整備工事と併せた水管理システム導入を進めていきます。



水位センサーと自動給水栓による水管理



操作説明会  
(芳賀農業振興事務所)

#### ○ 稲作経営を開始したIT企業(オプティムファーム)の地域定着支援(下都賀地域)

- 栃木市の小野寺地区では、ほ場整備された水田を中心に営農活動が行われていますが、中山間地の立地条件のため担い手不在が課題となっています。
- こうした中、IT企業が新たに地域の担い手として2haの水田で稲作経営を開始し、代表ほ場においてドローンによる直播栽培を行い、集落員の関心を集めました。
- 今後、更なる農地集積が期待されることから、地域の担い手になるよう、効率的な栽培体系等を支援していきます。



ドローンによる直播実演



出穂期の直播ほ場  
(下都賀農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ①-3 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

#### ○ 選別機導入により大豆の生産を拡大(上都賀地域)

- 日光地域では、共同で利用している大豆選別機の機能低下が作付面積の拡大の妨げになっていました。
- JA日光大豆部会では、新たに選別機を導入し生産環境が整ったことから、実需からの出荷要望に応え、大豆の生産拡大を進めています。
- 今後は、地元の食品事業者など実需者と連携しながら日光産大豆のブランド化を図り、地域の特産物として育成していきます。



導入された大豆選別機

(上都賀農業振興事務所)



## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ②-1 施設園芸の生産性・収益性の向上

#### ○ 「とちあいか」の生産拡大について

- 「とちあいか」は、収量性が高く、病気に強く作りやすいこと等から、急激に栽培面積が拡大しており、令和5(2023)年度に初めて、「とちおとめ」の栽培面積を上回りました。
- 収量及び品質の安定化に向け、「とちあいか未来創りサポートチーム」により、新規栽培者が安心して栽培できるよう重点指導を行うとともに、公式LINEを活用した栽培情報の提供や、県域の現地検討会を開催しました。
- 今後も、「いちご王国・栃木戦略」に基づき、「とちあいか」の生産拡大を進めていきます。



公式LINEによる情報  
発信



とちあいか県域現地検討会

(生産振興課)

#### ○ 施設園芸“就農環境日本一”生産モデルの確立

- 今後の本県農業を担う若者が夢を持てる、高収益な施設園芸の実現を図るため、最新の施設や設備、技術を組み合わせた、施設園芸“就農環境日本一”生産モデルの構築や現地実証を進めています。
- 令和5(2023)年度は、いちご生産モデルの現地検討会を開催するとともに、にら生産モデルの現地実証を開始いたしました。
- 今後も、生産モデルの現地実証や情報発信を行い、現地への普及展開を図っていきます。



いちご生産モデルの現地検討会



にら生産モデルの実証ハウス

(生産振興課)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ②-2 施設園芸の生産性・収益性の向上

#### ○ いちご産地日本一の発展に向けた「芳賀地域115(いい・いちご)」戦略の推進(芳賀地域)

- 芳賀地域では、生産者・JA・市町とともに令和5(2023)年1月に「芳賀地域115(いい・いちご)戦略」を策定し、目標実現に向け取り組んでいます。
- その結果、令和5(2023)年産のJA販売額は過去最高額の103.8億円となり、2年連続で100億円を達成しました。また、令和6(2024)年産「とちあいか」の作付割合は52%(83.6ha)まで拡大し、戦略目標である50%(80ha)を1年前倒しで達成しました。
- 今後も、令和7(2025)年産のJA販売額「115億円」達成に向け、関係者一致団結して取り組んでいきます。



とちあいか栽培講習会



現地検討会  
(芳賀農業振興事務所)

#### ○ 「とちあいか」の生産拡大のためのサポートチーム活動(下都賀地域)

- 「とちあいか」は下都賀管内において、栽培面積の6割以上を占めています。新規栽培者が増加していることから、県と関係団体が一体となったサポートチームが、生理障害対策や収量・品質の向上に必要な支援を実施しています。
- 具体的には、課題を持つ生産者のリストアップと重点指導、全栽培者を対象とした糖度調査、ICT機器を活用した優良事例調査、現地検討会による関係者の交流促進等を行っています。
- 今後は、活動で得られたデータをもとに栽培環境が収量等に及ぼす影響について分析・周知し、さらなる生産拡大を後押ししていきます。



現地検討会の様子



ICT機器と生育調査の様子  
(下都賀農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ②-3 施設園芸の生産性・収益性の向上

#### ○ とちあいかの生産拡大による産地強化と技術支援(安足地域)

- 「とちあいか」の生産拡大に向けて、品種特性や栽培技術の指導・支援を行うとともに、管内でのリレー苗(定植苗)供給体制の整備に取り組みました。
- 「とちあいか」の作付が拡大し、佐野・足利地方いちごリレー苗生産協議会が設立しました。
- 「とちあいか」リレー苗の安定供給に向け、協議会に対し、管内生産農家での増殖支援や需給調整、知的財産権の保護、安定生産のための協議会の運営支援を行います。



とちあいかの現地検討会



とちあいか  
(安足農業振興事務所)

#### ○ グリーン農業推進のための技術検証と導入促進(安足地域)

- 品目・地域に適した環境負荷低減技術の確立を図るため、いちごではUV-B照射によるうどんこ病抑制技術と生分解マルチの導入、トルコギキョウでは低エタノール土壌還元消毒について、展示ほでの実証試験に取り組みました。
- 結果を検証・評価し、十分な効果が見込まれることから、まずはいちごに係る2技術について、技術マニュアルを作成しました。
- 作成したマニュアルを活用し、グリーン農業技術の普及推進に取り組みます。



UV-Bの照射状況



低エタノール土壌還元消毒  
(安足農業振興事務所)

# (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

## ②-4 施設園芸の生産性・収益性の向上

### ○ 高品質トマトのブランド化と環境負荷低減取組(那須地域)

- 那須塩原市の高松英樹・正穂夫妻は、高品質トマト栽培に取り組み、独自ブランド「味恋とまと」として付加価値を付け、百貨店や高級レストランに対へ直接販売を行っています。
- 環境負荷低減にも取り組み、出荷資材のリユースや木質ペレット暖房機の導入、病虫害の耕種的防除に努めています。これらが評価され、高松氏は、令和5(2023)年度栃木県農業大賞農業経営の部において大賞を受賞しました。
- 今後もこのような取組を支援し、地域内ブランド力の向上やグリーン農業技術を広めていきます。



味恋とまと



木質ペレット暖房機  
(那須農業振興事務所)

### ○ にら中核経営体の育成(上都賀地域)

- 省力化と増収効果を狙った「ウォーターカーテン」の導入拡大を推進しており、補助事業の活用等により導入面積は年々増加しています。
- 「ウォーターカーテン」の省力効果により規模拡大が図られ、そぐり機や雇用の導入、夏専用品種の拡大による周年安定生産の実現が更なる規模拡大につながる好循環を生み、中核経営体は令和2(2020)年度の3戸から1億円超3戸を含む8戸に増加しました。
- 今後も、にらが「より儲かる品目」として認識され、中核経営体がさらに増加するよう取組を推進します。



ウォーターカーテンの導入状況



ハウス内の状況  
(上都賀農業振興事務所)

# (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

## ②-5 施設園芸の生産性・収益性の向上

### ○ アスパラガスの天敵利用による防除効果の検証(安足地域)

- とちぎグリーン農業を推進するため、アスパラガスでは実践事例が少ない天敵利用について、重要病害虫であるハダニ類、アザミウマ類を対象とした防除効果を検証しました。
- 管内の生産者や関係機関に対し検討会・講習会を実施し、当技術の周知・紹介を行いました。
- 防除効果が確認できたため、ハダニ類、アザミウマ類を対象とした防除技術の一つとして技術の普及拡大を図ります。



アスパラガスの天敵利用現地検討会

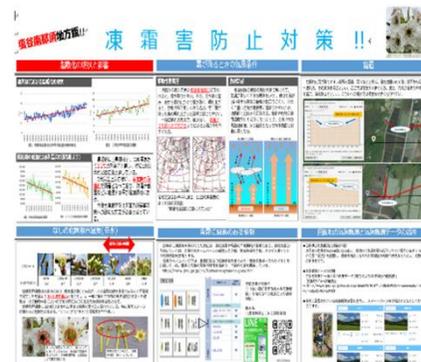


天敵放飼の様子

(安足農業振興事務所)

### ○ なしの凍霜害対策といちご炭疽病対策推進(塩谷南那須地域)

- 近年の気候変動への対応力を強化するため、特に課題となっている、なしの凍霜害対策といちごの炭疽病対策に取り組んでいます。
- なしの凍霜害対策では、LINEを活用した連絡体制整備や先進地への視察研修を行い、地域で検討した対策をまとめた指針を作成し、普及を図っています。
- いちご炭疽病対策では、パート作業員にも理解しやすい下敷き型の対策技術資料を作成・配布を行い、作業員への理解を深め、対策の徹底を進めています。



なしの凍霜害防止対策指針



いちご炭疽病対策資料

(塩谷南那須農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ②-6 施設園芸の生産性・収益性の向上

#### ○ 園芸用ハウス事業継続強化対策事業下都賀地域ハウス補強研修会の開催(下都賀地域)

- 大雪や台風などの自然災害による園芸用施設の被害を未然に防ぐため、ハウスの保守管理や補強、非常時の対策に関する研修会を開催しました。
- 渡辺パイプ(株)の中川氏を講師に招き、風雪による被害発生メカニズム及び被害パターンに応じた補強方法について実物の補強資材を用いながら説明いただきました。また、実際のパイプハウスを用いて生産者自らが簡易に取り組める補強方法について実演を行いました。
- 今後も下都賀農業振興事務所では農業施設の防災力を高める取組を推進していきます。



ハウスの保守点検の方法  
についての講義



ハウスの補強方法の実演  
(下都賀農業振興事務所)

#### ○ 基盤整備事業を契機とした施設園芸導入(芳賀地域)

- 市貝町椎谷地区では、令和元(2019)年度に基盤整備事業に着手し、令和8(2026)年度の事業完了を目指しています。地区の全面積で暗渠排水工事を実施し、畑利用も可能な水田となりました。
- そのような中、地域外から1法人が新規参入し、きゅうり、とうがらし、ピーマン、トマトなどの施設野菜の栽培が始まりました。
- 今後は、基盤整備事業を契機に、地区面積の約9割を担い手に集積、そのうち約8割を集約するとともに、幅広畦畔やドローンによる農薬散布を導入し、効率的な農業の実現を目指します。



新規参入による施設  
園芸ハウス



とうがらしの栽培状況  
(芳賀農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ③-1 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

#### ○ 栃木県さつまいも研究会の設立

- 県内各地でさつまいもの産地づくりが進みつつある中、産地の課題を相談できる県域のネットワークとして「栃木県さつまいも研究会」を設立しました。
- 令和5(2023)年度は、苗の確保や貯蔵、排水等の技術対策等の各産地における課題を整理し、課題解決に向けた茨城県への現地視察を実施するとともに、新品種や商品開発の事例等を紹介する講演会を開催することで、今後の経営戦略への意識の向上を図りました。
- 今後も、さつまいもの安定生産と産地の拡大を目指し、引き続き研究会の活動を進めていきます。



課題検討の様子



茨城県への現地視察

(生産振興課)

#### ○ さつまいも生産者間の連携強化に向けた現地検討会・情報交換会の開催(河内地域)

- 令和6(2024)年3月に宇都宮北西部営農会さつまいも生産部と個人出荷者を対象として、自家増殖苗の現地検討会・情報交換会を開催しました。
- 現地検討会では、生産者のほ場で種いもの伏せ込みの手順や注意点について検討しました。また、情報交換会では、定植苗の安定供給に向けた課題や来年度の推進方針について意見交換を行いました。
- 今後は生産者同士のネットワークを構築するとともに栽培技術や貯蔵技術などの向上を図り、産地拡大を目指していきます。



種いものを伏せ込む様子



情報交換会

(河内農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ③-2 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

#### ○ 露地野菜部門の導入による施設園芸トマト経営の経営展開(下都賀地域)

- ・ トマトはスーパー等で人気が高い野菜ですが、近年は単価が低迷しており、生産者の経営は厳しい状況です。
- ・ 栃木市に拠点を置く和総農園株式会社は、トマト専作の農業法人でした。10年前に68aのハウスを新設しましたが、返済が所得を圧迫するようになりました。
- ・ そこで危機から脱却するため、トマトと作業重複がなく、少ない投資で栽培できる新たな品目として、さつまいもに取り組みました。現在5haの作付けですが、今後はさらに規模拡大しつつ、カボチャなどの露地野菜を組み合わせることで経営の強化を図ります。



機械で収穫するスタッフ



岩船山の麓を埋めるさつまいも  
(下都賀農業振興事務所)

#### ○ 『塩谷南那須地域「さつまいも」産地躍進戦略』の策定(塩谷南那須地域)

- ・ 塩谷南那須地域のさつまいも産地の更なる発展に向けて、5年後の目指す姿やその実現に向けた考え方を示した産地躍進戦略を策定しました。
- ・ 本戦略に基づき、5年後に栽培面積100haまで拡大させるとともに、高収益なさつまいも生産の実現や産地の発展を担う多様な人材の活躍、地域に人を呼び込む新たな特産品化を目指していきます。
- ・ 今後は、関係者が一丸となって取組を推進し、当産地をあらゆる場面を通じて「求められるさつまいも産地」へと進化させていきます。



産地躍進大会の様子



「さつまいも」産地躍進戦略  
(塩谷南那須農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ③-3 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

#### ○ より強いさといも産地づくりに向けた取組 (上都賀地域)

- 上都賀農業振興事務所では、県内一のさといも産地の強化に向け、栽培と販売の両面を支援しています。
- 生産部会と連携し、省力機械実演会等の開催や鹿沼市と日光市の共同選別開始に向けた品質向上対策を支援しました。この結果、鹿沼市は面積が1.5ha拡大し、日光市は単価が前年比195%向上しました。
- 単価向上は生産意欲の向上に繋がり、新規栽培者確保にも弾みがつくことが期待されます。今後は、基盤整備計画地区等に推進し、産地拡大を図ります。



省力機械実演会(11月、鹿沼市)



鹿沼・日光合同目揃会  
(上都賀農業振興事務所)

#### ○ 水田露地野菜「安足管内に適したさといものかん水方法及び省力施肥法」の検討(安足地域)

- 用水の確保が難しい地域条件に合わせた「間断かん水」と追肥不要の「肥効調節型肥料」を組み合わせた「水田でのさといも栽培技術」の実証試験に取り組みました。
- 露地野菜の産地拡大及び栽培の安定化に向けて、さといもの導入推進や個別巡回による技術支援等を行いました。
- 引き続き、安足地域に適したかん水方法や肥培管理について推進を図っていきます。



現地検討会の様子



水位センサー

(安足農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ③-4 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

#### ○ 那須地方スマート農業現地研修会の開催(那須地域)

- スマート農業機械の導入による省力化によって、経営規模の拡大や高収益作物の導入を促進するため、基盤整備された大田原市荒井町島地区で、自動操舵システムを搭載したトラクターによる現地研修会を開催しました。
- 研修会では、自動操舵システムを利用したねぎの畝立て作業状況の見学のほか、重複作業の減少による作業時間の短縮効果の報告があり、スマート農業機械導入の理解促進が図られました。



研修会の様子



作業状況

(那須農業振興事務所)

#### ○ 園芸品目の導入推進(那須地域)

- 那須地域の広大な水田をフルに活用した園芸の振興を図るため、令和5(2023)年度は土地利用型園芸や施設園芸の優良事例を視察する研修会を計6回開催しました。
- 研修会には、土地改良区の担い手や新規就農希望者などの参加があり、園芸作物への理解を深めることができました。更には露地野菜の省力化技術としての普及が期待できるドローンを活用した薬剤散布の実演も行いました。
- 今後も関係者と一体となり、農地整備等と連携し、水田がフル活用できる園芸作物の推進に取り組んでいきます。



園芸作物導入研修会の様子 (左：ねぎ、ドローン、右：キャベツ)

(那須農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

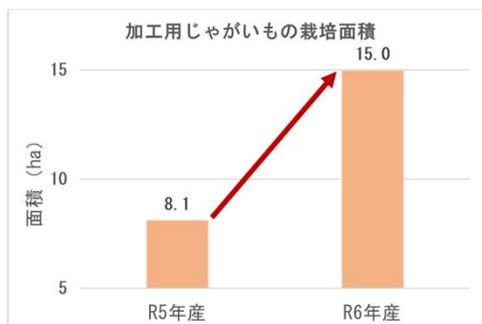
### ③-5 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

#### ○ 加工用じゃがいもの作付拡大(芳賀地域)

- 加工用じゃがいもの産地拡大を目指し、モデル事例の確保・育成を強化しました。
- 規模拡大志向の4名に対し、出荷先の企業と連携した技術向上や、補助事業活用による省力化機械の導入を支援しました。その結果、既存栽培者の規模拡大が進み、令和6（2024）年産は栽培者7名で15ha（前年比+6.9ha）に拡大しました。
- 今後は更なる産地拡大に向け、新規栽培者の掘り起しに重点的に取り組んでいきます。



収穫実演会



加工用じゃがいもの栽培面積推移

(芳賀農業振興事務所)



## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ④-1 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

#### ○ ドローンを活用した低コスト生産(上都賀地域)

- 日光市内では現在58機の農業用ドローンが導入され、防除作業や追肥作業で活躍しています。
- 夏期の作業が軽労化されるとともに、最適なタイミングでの防除や追肥が可能となり品質の向上につながっています。
- 令和5(2023)年秋にRTK基地局が設置され、令和6(2024)年4月から本格運用されます。
- これにより、ドローンの飛行精度が高まり、誤差数センチ単位での作業が可能になることから、労働時間の短縮や燃料・肥料などの使用量低減による一層の低コスト化が期待されます。



防除中のドローン



RTK基地局  
(上都賀農業振興事務所)

#### ○ 緑肥の活用による水稻施肥コストの低減(芳賀地域)

- 肥料高騰が続く中、肥料を化成肥料と比べ安価な緑肥作物に代替した低コスト栽培の実証を行いました。
- 令和4(2022)年10月に、ほ場に緑肥作物の一種であるヘアリーベッチの種子を播き、5月に細断・すき込みをして田植えを行った結果、化成肥料と同等の収量が確保され、低コスト栽培が実証されました。
- ヘアリーベッチの生育量コントロール等の課題はあるものの、低コスト生産に繋がることから、普及に向けて生産者への支援を行っていきます。



ヘアリーベッチの細断作業



順調な生育の水稻

(芳賀農業振興事務所)

# (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

## ④-2 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

### ○ 飼料用米多収品種「夢あおば」の導入・拡大 (安足地域)

- 令和6(2024)年度以降における飼料用米に対する国の助成制度の見直しを受けて、飼料用米多収品種の導入・拡大を図るため、JA及びJA耕種部会が設置した「夢あおば」展示ほの運営を支援しました。
- 関係機関・団体と連携して生育特性等の調査結果を情報発信し、生産者の作付意欲を醸成した結果、令和6(2024)年産の作付面積は409.5ha(令和5(2023)年産:6.6ha)まで拡大する見込みとなりました。
- 今後も農業者の収益性向上のため、多収品種の導入・拡大を推進していくとともに、安定生産に向けて栽培技術の周知を行っていきます。

### ○ 機能性大麦の生産拡大支援(安足地域)

- 国産麦の安定供給や生産者の所得向上を図るため、本県育成の「もち絹香」を中心とした機能性大麦の生産拡大に取り組んでいます。
- 需要の高まりを受けて、「もち絹香流通安定コンソーシアム(以下コンソーシアムという。)」において、実需者やJA、生産者との調整を行い、作付面積は令和6(2024)年産で172ha(令和5(2023)年産99ha)まで拡大しました。
- 今後も、新規生産者への技術指導を重点的に行い、収量・品質の安定化を支援していきます。また、引き続きコンソーシアムにおいて、需要・生産動向に関する情報共有を行いながら、産地として計画的な生産に取り組んでいきます。



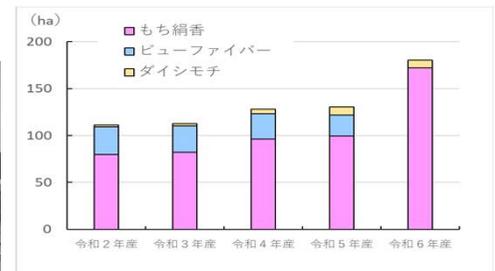
「夢あおば」の特性を確認する生産者



「夢あおば」栽培ごよみ (安足農業振興事務所)



実需者を交えた情報交換



機能性大麦の作付面積の推移 (安足農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ④-3 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

#### ○ 大豆生産推進セミナーを開催！

- 大豆の生産拡大に向け、令和5(2023)年12月22日に、大豆生産推進セミナーを開催し、生産者や関係者など約70名が参加しました。
- セミナーでは、実需者や専門家等による県産大豆の需要動向や技術研修等の講演のほか、無人汎用コンバイン等の最新型のスマート農業機械による実演が行われました。
- 今後も、大豆の生産拡大に向け、大豆生産者への個別推進の実施や、栽培技術の実証などに取り組んでいきます。



セミナーの様子



無人汎用コンバインの実演  
(生産振興課)

#### ○ 大豆ほ場への鶏ふん施肥効果を実証（河内地域）

- 宇都宮市上田地区では、大豆の単収向上による収益確保に向けた取組を継続的に実施しています。
- 令和5(2023)年度は12枚のほ場で土壌分析を行い、鶏ふんを利用した施肥設計を行いました。化学肥料の一部を安価な鶏ふんに代替することで、肥料代を抑えながら化学肥料のみを施用した場合と同等の施肥効果を確認できました。
- 今後も大豆の単収向上に向けて、基本技術や輪作の励行、有機物の活用による土壌栄養改善等の栽培技術支援を行っていきます。



鶏ふん施用ほ場



成績検討会

(河内農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ④-4 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

#### ○ 那須地方大豆セミナーを開催(那須地域)

- ・ 国産大豆の需要が増していることや、本県産の大豆は実需者から高い評価を得ていることから、今後、ますますの需要拡大が見込まれます。
- ・ このような情勢を踏まえ、那須地方の大豆生産拡大を図るため、令和5(2023)年6月と令和6(2024)年2月にセミナー開催しました。100名を超える生産者の大豆生産拡大に向けた意欲が伺えました。
- ・ これからも、高品質・高収量を確保するための技術指導や、大豆生産の有利性について周知し、大豆の生産拡大を図っていきます。



一発耕起播種機の展示



セミナーの様子

(那須農業振興事務所)



## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ⑤-1 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

#### ○ 第三者継承による持続的な酪農経営の支援 (芳賀地域)

- ・ 益子町における後継者不在の酪農家と新規就農希望者のマッチングを支援し、芳賀地域では初めての酪農の第三者継承による新規就農者が誕生しました。
- ・ 資産の確認、青年等就農計画の作成等を関係者が連携して支援し、継承者は令和6(2024)年1月1日から経営を開始し、地域の持続的な農畜産業の発展に向けた新たな一歩を踏み出しました。
- ・ 今後も担い手の確保・育成を推進し、生乳生産量全国第2位である本県の酪農の持続的な発展を支援していきます。



関係者打合せ



第三者継承による新規就農者  
(芳賀農業振興事務所)

#### ○ 養豚情報の解析システムを開発(畜産DX)

- ・ 養豚農場の慢性疾病を低減し、生産性や品質の向上を図るため、とちぎ食肉センター等に蓄積されているビッグデータを解析し、図やグラフで可視化する農場のカルテを開発しました。これにより、県家畜保健衛生所による指導や、生産者自らの飼養改善に活用できます。
- ・ 実際にカルテを使用した農場からは「分かりやすい」、「対策が行いやすい」など高い評価を得ています。
- ・ 今後は、農場での導入成果や畜産DXのメリットを紹介し、県内に広く普及させ、本県養豚農家の一層の経営発展を支えていきます。



操作説明を受ける生産者



農場での指導の様子  
(畜産振興課)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ⑤-2 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

#### ○ 耕畜連携推進研修会の開催

- 水田を活用した自給飼料生産を推進するため、令和5(2023)11月に耕畜連携推進研修会を開催しました。
- 研修会では、稲WCS専用品種の特性や栽培技術に係る講演のほか、耕種農家による飼料生産、酪農家及び酪農協による粳米のソフトグレインサイレージ(SGS)生産等、県内の耕畜連携の事例紹介を行いました。
- 研修会には耕種農家、畜産農家、関係団体など、約100名が参加し、SGSによる飼料費削減効果等について、情報交換を行いました。
- 今後も、研修会等を通じて情報共有を進め、更なる耕畜連携の推進に取り組めます。



研修会の様子



質疑応答の様子 (畜産振興課)

#### ○ 稲WCS生産の耕種農家と酪農家をマッチング(河内地域)

- 化学肥料や輸入飼料の高騰が続く中、耕畜連携コーディネーターを設置し、耕種農家と畜産農家が連携して、稲WCSと堆肥を交換するモデルづくりを推進しました。
- これにより、耕種農家は堆肥への代替、化学肥料の低減による低コスト化が、酪農家は低価格での国産粗飼料の確保が可能となり、ウィンウィンの関係が構築できました。
- 今後は、この取組を周辺や市町単位まで広め、耕種農家による飼料作物の生産拡大と畜産農家による国産飼料の利用率向上の取組を進めていきます。



水田での堆肥散布



稲WCS (ロールベール)

(河内農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ⑤-3 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

#### ○ SGS・稲WCS等自給飼料の生産拡大 (上都賀地域)

- 飼料価格の高騰に対応し、自給飼料の生産拡大を図るため、SGS・稲WCS生産組織の取組面積拡大に向けた支援を実施しました。
- 飼料生産組織の機械導入等を支援するとともに、新たに委嘱した耕畜連携コーディネーターの協力のもと、耕種農家と畜産農家のマッチングを行い、取組面積拡大につなげました。
- 飼料生産組織では、収穫期の新型機種導入により飼料の品質が向上したほか、2台体制になったことにより収穫作業が効率化しました。



WCSの収穫作業風景



SGS製造プラントの様子

(上都賀農業振興事務所)

#### ○ 耕畜連携の推進～新たな飼料生産組織の支援～(芳賀地域)

- 地域内での自給飼料の生産・利用を、耕畜連携により進めています。
- 耕種農家で構成する新たな飼料生産組織と、酪農協同組合及び町農業再生協議会の三者により自給飼料の利用・供給調整を行う協議会が設立しました。協議会によるマッチングで、飼料生産組織と酪農家が契約し、酪農家への飼料作物の供給を開始しました。
- 今後もこの取組を支援し、地域内自給飼料供給体制の確立につなげていきます。



飼料用とうもろこしの  
収穫作業



飼料用とうもろこしの  
密封作業

(芳賀農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ⑤-4 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

#### ○ 令和5(2023)年度第1回下都賀地域持続的畜産経営推進会議の開催(下都賀地域)

- 耕種農家と畜産農家双方の生産コストの削減と経営の維持・発展に向けて、関係機関・団体と地域の現状・課題を共有し、対応方針を協議するため、推進会議を開催しました。
- また、会議において耕種農家と畜産農家とのマッチングを図る耕畜連携コーディネーターに、県OBの野沢慎一氏を委嘱しました。
- 今後も、下都賀管内における稲WCSの増産や堆肥のペレット化の推進等の課題の解決に向け、耕畜連携コーディネーター含む関係機関・団体と現状を共有し、協議した対応方針を着実に実施していきます。



コーディネーターの活動



持続的畜産経営推進会議

(下都賀農業振興事務所)

#### ○ 耕畜連携の取組推進(那須地域)

- 那須地域では、地域の資源である堆肥を有効活用し、収量の安定化や生産コストの低減を図ることにより、耕種・園芸農家と畜産農家双方の経営の安定化と生産力の強化を目指しています。
- 令和5(2023)年度は、具体的な取組をまとめた取組方針を作成、関係機関で共有するとともに、方針に基づく耕種・畜産農家のマッチングや飼料生産を志向する耕種農家に対する情報提供を行いました。
- 今後は、飼料生産の担い手確保を図るため、コントラクター等の育成を重点的に進めます。



那須地方耕畜連携推進会議

(那須農業振興事務所)

## (3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

### ⑤-5 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

#### ○ 子実とうもろこしの定着支援(上都賀地域)

- 主食用米に代わる水田の転換作物として、子実とうもろこしの作付けが始まり、農研機構や畜産酪農研究センターと連携し、技術支援を実施しています。
- 麦は水田の転換作物として広く栽培されていますが、麦跡での子実とうもろこしの栽培事例が少ないことから、晩播に適した品種を比較選定するとともに、難防除雑草に効果が期待できる除草剤の現地実証試験を行ってきました。
- その結果、麦跡でも収量が確保できる品種や除草剤の効果が明らかになりました。今後も現地実証試験を継続し、安定生産技術の確立を目指します。



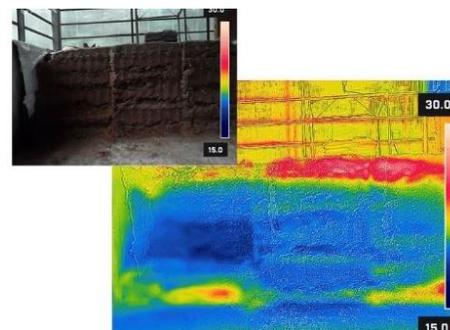
ドローンによる害虫防除



子実トウモロコシ収穫風景  
(上都賀農業振興事務所)

#### ○ 飼料用とうもろこしサイレージの収量向上に関する取組(那須地域)

- 牛群検定組合が行う。ドローン等のスマート機器を用いた飼料用とうもろこし増産の取組を支援しました。
- ドローンで草地の植生を空撮し、ほ場の耕起、播種及び雑草防除等の作業を点検することで、とうもろこし栽培管理を適正化し、収量の向上が図られました。
- また、サーマルカメラでサイレージの保管施設を撮影し、感熱画像により発熱箇所(不良発酵部)を明示することで、サイレージの損失低減が図られました。
- 今後もスマート機器の活用により、飼料増産に対する新たな視点での指導、支援を継続予定です。



保管施設の感熱画像



130m上空からの圃場  
(那須農業振興事務所)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ①-1 農産物のブランド力向上と競争力の強化

#### ○ 「いちご王国・栃木」プロモーションの実施

- 「いちご王国・栃木」の全国的なイメージ定着を図るため、県内のほか、首都圏や関西圏においてプロモーションを実施しました。
- 県内では県誕生150年記念「いちご王国・栃木の日」イベントを開催したほか、新たに「大切な人にいちごを贈ろう運動」キャンペーンを実施し、2,072名の方から応募がありました。首都圏や関西圏ではPRイベントを実施し、県産いちごの魅力を発信しました。
- 今後も「いちご王国・栃木」の魅力を発信し、多くの方に県産いちごの魅力をPRしていきます。



栃木県誕生150年記念  
「いちご王国・栃木の日」  
ステージイベントの様子



J R 上野駅でのマルシェ  
(経済流通課)

#### ○ 関西圏における県産農産物の魅力発信

- 関西圏における県産農産物の認知度向上と利用促進を図るため、大阪市内で県産農産物を使ったレシピによる料理教室を開催しました。
- 16回のレッスンで計61名の方が受講し、「とちぎの星」や「白美人ねぎ」等を使ったパエリアやオムレツ、フリット等の調理を行いました。受講者に対し行ったアンケートでは、約7割の方からスーパー等で県産農産物を見かければ購入したいとの回答が得られました。
- 今後も様々な手法により、県産農産物の魅力発信に繋がるPRを展開していきます。



料理教室の様子



「とちぎの星」を使った  
パエリア

(経済流通課)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ①-2 農産物のブランド力向上と競争力の強化

#### ○ 県産米の消費拡大に向けた取組の強化

- ・ コロナ禍に落ち込んだ県産米の需要は回復傾向にあるものの、米の価格はコロナ禍前の水準まで至っていない状況です。
- ・ 一方で、現在、中食及び外食向け需要が好調なほか、手間をかけずに済むパックご飯の購入が増加しているなど、米の消費量が伸びる兆しが出ています。
- ・ これらの状況を踏まえ、県では、県産米の消費拡大と定着を図るため、農業団体が実施する、県産米のPRイベントや、県内だけでなく首都圏を始めとした県外の商業施設でのキャンペーンなど、県産米の認知度向上に向けた取組を支援しています。



若い世代向けの県産米のPR  
(eスポーツフェスタ)



県外での販売促進キャンペーンの実施  
(生産振興課)

#### ○ 牛乳乳製品の消費拡大に向けて

- ・ 県では、今般の厳しい酪農情勢を踏まえ、令和5(2023)年7月に、牛乳の消費が落ち込む8月と12月を新たに「栃木県民牛乳消費拡大月間」に制定しました。
- ・ 栃木県牛乳普及協会と連携し、ミルクキッチンカー「ミルット号」による牛乳等の販売活動や、12月に「とちぎ☆冬ミルクプレゼントキャンペーン」を実施することで牛乳・乳製品の消費拡大を図りました。
- ・ 今後も、8月は「とちぎ☆夏ミルク」、12月は「とちぎ☆冬ミルク」を合言葉に、県民運動として牛乳の消費拡大に努めていきます。



「ミルット号」お披露目式



栃木県民牛乳消費拡大月間

(畜産振興課)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ①-3 農産物のブランド力向上と競争力の強化

#### ○ ツールデザイン相談会を実施(河内地域)

- 農産物や農産加工品のブランド力向上、競争力の強化を目的に、文星芸術大学の教授を講師にデザイン相談会を実施しました。
- 河内管内の生産者4組が参加し、農産物のパッケージや、各農園のロゴ、メッセージカードなどのデザイン作成を行いました。
- 今後も、地域の魅力ある農産物等の効果的な発信方法を検討し、ニーズに合った研修会を実施します。



ヒアリングの様子



デザインを検討する様子

(河内農業振興事務所)

#### ○ 農産物加工品で来庁者をお出迎え(芳賀地域)

- 芳賀管内5市町の農産物加工品をより多くの方に知っていただくため、「夏～秋」と「冬～春」に区切り、芳賀庁舎1階ロビーのショーケースに展示しています。
- 令和5(2023)年12月から始まった“いちご”をテーマとした展示では、栃木県のいちご主力品種である「とちあいか」を使用した7つの新商品を中心に、管内市町から推薦された23商品が、来庁者を出迎えました。
- 今後も、SNSによる情報発信や各種イベントにおけるPR等と併せて、芳賀地域の農産物加工品の認知度を高めていきます。



芳賀管内のいちご23商品が並ぶショーケース



7種の「とちあいか」新商品

(芳賀農業振興事務所)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ①-4 農産物のブランド力向上と競争力の強化

#### ○ 第10回那須地域良食味米コンクールの開催 (那須地域)

- ・ 那須地域の米のPRやブランド力向上を目的に、「第10回那須地域良食味米コンクール」を開催しました。
- ・ 管内から、3部門合わせて58点の応募があり、機械分析による一次審査と、県内外の消費者5組、とちぎフレッシュメイトや若手農業者による食味審査による最優秀賞を決定しました。「コシヒカリ部門」は那須塩原市の平山岳夫氏が「なすひかり部門」「その他良食味米品種部門」は同市のアーデルファーム株式会社が受賞しました。
- ・ コンクール出品による研鑽で技術向上が図られ、さらなる良食味米の生産につながるよう支援していきます。



最優秀賞受賞の皆さん



若手農業者による食味審査

(那須農業振興事務所)



## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ②-1 農産物の輸出拡大

#### ○ 輸出促進員による産地支援

- 輸出ノウハウを持つ輸出促進員を(一社)とちぎ農産物マーケティング協会に設置し、農産物輸出相談への対応や試験輸出の支援等に取り組んでいます。
- 令和5(2023)年6月に生産者やJA担当者等約40名を対象に輸出セミナーを開催したほか、牛肉やいちごなど4件の試験試験輸出、輸出に関心のある生産者に対する輸出先国の規制等への助言などに取り組みました。
- 引き続き、生産者や農業団体へフォローアップに取り組み、輸出の産地づくりを進めていきます。



商談支援の様子



海外でのPRの様子

(経済流通課)

#### ○ 輸出拡大に向けた海外バイヤーの招へい

- 県産農産物の魅力を伝え、取引拡大につなげるため、海外の農産物バイヤーを本県へ招き、県内の産地を案内しました。
- 令和5(2023)年10月にシンガポール及び香港の青果物バイヤー、令和6(2024)年3月にシンガポールの牛肉バイヤーに対し、生産現場における生産者のこだわりや、安全・安心の確保に向けた取組を紹介するとともに、意見交換を実施しました。
- バイヤー招へいを通じて、県産農産物の品質や魅力等が認められたことから、更なる取引拡大に向けてオール栃木で対応を進めていきます。



にっこり生産ほ場の視察



とちぎ和牛肥育施設の視察

(経済流通課)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ②-2 農産物の輸出拡大

#### ○ 東アジア、東南アジアにおける青果物プロモーションの実施

- ・ 県産青果物の更なる輸出拡大に向け、令和5(2023)年10月～令和6(2024)年3月に主な輸出先である東アジア、東南アジアにおいて、現地プロモーションを実施しました。
- ・ Withコロナとなった令和5(2023)年度は、県職員が海外現地にPRするなど、店頭での試食販売をより強化するとともに、SNSを利用した販売促進活動やECサイトを活用したプロモーションを実施しました。
- ・ 今後は、「とちあいか」の輸出拡大に向けたPRの重点化や、インフルエンサーを活用した情報発信などに取り組んで参ります。



店頭での試食販売



S N S での情報発信  
(経済流通課)

#### ○ 米の輸出拡大に向けた海外プロモーションの実施

- ・ 米の市場規模の拡大が見込まれるフランス・パリの日本食材取扱店等3店舗において、県産米「とちぎの星」を使用したおにぎりの試食PRを実施しました。
- ・ 期間中、3店舗で約250名の消費者に、「とちぎの星」のおにぎりの提供と併せて食味等に関するアンケートを実施し、ほとんどの消費者からおいしいとの評価が得られました。
- ・ 冷めてもおいしい「とちぎの星」の食味が消費者や実需者に受け入れられたことから、フランスなどEUへの販路開拓に向けて取り組んで参ります。



おにぎりの試食をする消費者



提供したおにぎり

(経済流通課)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ②-3 農産物の輸出拡大

#### ○ 栃木県産農産物輸出促進会議の開催

- 令和5(2023)年7月に行政、生産者団体、輸出事業者等で構成する「栃木県産農産物輸出促進会議」を3年ぶりに対面で開催しました。
- 会議では、輸出促進に係る課題や取組方針の共有に加え、海外の輸入事業者(2者:青果物)からの県産農産物に対する評価や、県内の事業者(3者:いちご、牛肉)の取組報告などを通じて関係者との連携を強化しました。
- 引き続き、更なる輸出拡大に向けて、オール栃木体制で取り組んで参ります。



会議の様子



県内事業者の取組報告

(経済流通課)

#### ○ 県産牛の輸出拡大の取組(那須地域)

- 那須農業振興事務所では、県産牛のシンガポールへの輸出拡大を希望する食肉事業者を支援しました。
- 事業者は、動画や木製楯を作成し、バイヤーや現地消費者向けのPR、現地での商談会を実施しました。また、バイヤーを本県に招へいし、生産者のこだわりや牛の生育環境を実際に見てもらうことで、県産牛への理解が進みました。
- 引き続き、県産農産物の輸出拡大の取組を支援し、海外市場に新たな販路を作ることで、事業者や生産者の収益安定につなげていきます。



バイヤー招へいの様子



取扱店を証する木製楯

(那須農業振興事務所)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ③-1 次世代を見据えた研究開発の推進

#### ○ 急拡大する「とちあいか」の安定生産技術の確立

- 「とちあいか」は、令和6(2024)年産の栽培面積が県内いちご栽培面積の約58%を占める279.6haに達し、本県の主力品種として順調に普及拡大しています。
- 栽培者が増加する中、収量・品質の高位平準化を図るため、生理障害対策や安定生産技術について、試験研究や生産現場で得られた新たな知見を追加し、栽培マニュアルを改定しました。
- 今後は、初期収量の増加や品質の向上を中心に技術確立を進めていきます。



株元かん水による苗生産



CO<sub>2</sub>施用による生産性向上  
(経営技術課)

#### ○ ぶどうの経営改善を目指した優良品種の検討(下都賀地域)

- 管内ぶどう生産の約20%を占める「シャインマスカット」は、食べやすく栽培しやすいことから、全国的に生産量が増加しており、販売単価が低下していくことが予想されます。そこで、将来を見据え、次なる優良品種の検討会を実施しました。
- 黒系4品種、赤系1品種について栽培特性や食味評価の観点で検討した結果、新たな品種を導入する生産者も現れ、生産者の関心が高いことがわかりました。
- 今後も、検討会での意見や新たな品種を導入した生産者の結果等を踏まえ、産地として次に栽培していく品種について継続して検討していきます。



検討会の様子



検討品種の「BKシードレス」  
(下都賀農業振興事務所)

## (4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

### ③-2 次世代を見据えた研究開発の推進

#### ○ 米粉用米生産拡大研究会による専用品種の試作検討(下都賀地域)

- 輸入小麦価格の高騰やグルテンフリー食品へのニーズの高まりにより、米粉需要が増大しています。そこで、米粉用米の生産拡大を目指し、生産者・関係機関で構成された研究会を設立しました。
- 活動の中で、加工適性に優れた米粉用専用品種「笑みたわわ」について、展示ほを設置し、品種特性や栽培性を調査したところ、「笑みたわわ」は、加工適性のみならず多収性も兼ね備える一方、縞葉枯病・いもち病等の病害に弱く薬剤による体系防除が必須であることがわかりました。
- 今後は、展示ほの結果を基に栽培体系の確立に向けて調査を実施する予定です。



検討会の様子



病虫害発生程度調査の様子  
(下都賀農業振興事務所)

